



入選 (中学生)

夏祭り

夜を彩る

火の一輪

泉中学校 一年生 岡田 荘太

審査委員 青梅市俳句連盟 森本顧問 講評

今年は青梅大祭のほか、市内各地の夏祭りも何地域かで復活しました。山車やお囃子それに花火も。久しぶりで祭り気分が盛り上がったことでしょう。句中の「火の一輪」が工夫の表現ですね。

夏祭り夜を彩る火の一輪

荘太句

青梅市書道連盟 栗原会長に御協力いただき、表彰式にて短冊をお渡ししました。



入選 (中学生)

秋の暮れ

かげふみ歩く

帰り道

泉中学校 一年生 森田 穂香

審査委員 青梅市俳句連盟 森本顧問 講評

秋の日暮、部活を終えての帰り道、夕日を背中に受けながら家路を急ぐ森田さん。足元の自分の影を踏んでうつぶき加減に歩いていく姿です。秋という季節の寂しさが上手に捉えられました。

秋の暮
かげふみ
歩く
帰り道

穂香 句

青梅市書道連盟 栗原会長に御協力いただき、表彰式にて短冊をお渡ししました。



入選 (中学生)

煌く砂

裸足で歩く

夏の海

第二中学校 二年生 川島 し乃

審査委員 青梅市俳句連盟 森本顧問 講評

夏休みに海へ行かれて砂浜の波打ち際を裸足で歩かれたのですね。青梅に住んでいるとなかなか経験できないことですね。太陽に照れされ煌く砂、足裏が気持ちよかったことでしょう。

煌く砂 裸足で歩く夏の海

し乃句

青梅市書道連盟 栗原会長に御協力いただき、表彰式にて短冊をお渡ししました。



入選 (中学生)

母のまね

赤いトマトを

かぶりつき

第三中学校 二年生 小山田 壮和

審査委員 青梅市俳句連盟 森本顧問 講評

昭和時代のトマトは今のものよりいびつで大きく、当時の子供はよくかぶりついていました。お母さんもそのお母さんをまねたのかもしれないね、美味しかったことでしょう。

母のまね赤いトマトをかぶりつき

壮和句



入選 (中学生)

青春の

バトンに止まる

テントウムシ

泉中学校 三年生 平岡 愛菜

審査委員 青梅市俳句連盟 森本顧問 講評

「バトン」はリレー用とバントワラー用の二種。共に青春の雰
囲気がありますね。持とうとしたら「テントウムシ」が止まって
いて、ちょっと驚いた平岡さん。その表情が目には浮かびます。

青春のバトンに止まるテントウムシ

愛菜 句

青梅市書道連盟 栗原会長に御協力いただき、表彰式にて短冊をお渡ししました。



入選 (中学生)

蛍とぶ

夜の迷路の

道案内

吹上中学校 三年生 金杉 さくら

審査委員 青梅市俳句連盟 森本顧問 講評

蛍の棲むような場所は、道も狭く暗く歩き難いですね。足元を懐中電灯で照らしつつ、辺りを見回して蛍を探さねばなりません。そんなとき蛍が一匹飛んできて、道案内してくれたのですね。

蛍とぶ 夜の迷路の道案内

さくら句

青梅市書道連盟 栗原会長に御協力いただき、表彰式にて短冊をお渡ししました。